

ボランティア奨励コンテスト 1次審査（実施報告）

日 時：2021 年 11 月 20 日（土） 14:30～15:50

場 所：今出川キャンパス ジェームズ館 J207 参 加：2 団体 学生 8 名

活 動 名	団 体 名
食品ロス・貧困をなくすための活動	サステナブル研究会
げんき推進プロジェクト（高齢者とのオンライン交流）	まちづくり委員会

審査員：小崎 眞 （ボランティア活動支援センター長）

村上 恵 （学生支援部長）

岩永 ひなた（学生会長）

内 容：昨年度より開始した当コンテストは、「コロナ禍の状況でも地域社会での人とのつながりに工夫をしたボランティア活動」に募集内容を変更し、実施しています。上記 2 団体がエントリーをし、ポスターを使つてのプレゼンテーションおよび質疑応答による 1 次審査に臨みました。厳しい現実にあいながらも、参加者は熱願^{ねつがん}冷諦^{れいてい}の（熱意をもって真剣に願い求め、冷静になって本質を見極めた）活動と発表をしました。自分の考えのみに閉ざされることなく他者の意見に耳を傾け、豊かに響きあい学びあう、共感と共助の精神が培われる場となりました。

参加学生の感想：

- ・ほどよい緊張感と温かい雰囲気で発表しやすかったです。他団体の発表からは、私たちとは違う方面から「今、私たちにできること」を考えて活動を行なっていることを学びました。
- ・競い合う場というよりも、参加団体同士が健闘を称え合い、学びを深められる温かい雰囲気だったのが印象的でした。
- ・審査員の方に、アドバイスやこうしたら面白いのではないかとということをたくさんお話しくださったので、今後活動していくうえで貴重な情報収集の機会となったと思います。
- ・SNS のレシピ投稿では時短レシピにした方が良いのでは、という意見は参考になった。SNS の発信は企業にも見てもらえるチャンスの宝庫なので改善して質向上を図りたい。
- ・参加してくださっている高齢者の方々の世代観・お気持ちを考えたご助言をいただけたことで、このプロジェクトに改めてやりがいを見いだせました。



ボランティア活動支援センター



食品ロス・貧困をなくすための活動
(サステナブル研究会)

げんき推進プロジェクト
(まちづくり委員会)

食品ロス・貧困をなくすために ～「今、私たちができること」～

サステナブル研究会

01 活動概要

「食品ロスと貧困をなくす」という目的で、今年(2021年)の4月にサステナブル研究会を立ち上げました。

食品ロス(本来食べられるのに捨ててしまう食品)の解決法として、家庭で余っている食品を回収して、支援を必要とする個人や団体に提供する活動(フードドライブ)があります。

私たちは大学内でこの活動を実施することで、多くの方に食品ロスの現状を知っていただき、少しでも家庭内の「もったいない」をなくしていきたいと思っています。




02 私たちの思い

- ・SDGsのなかの「貧困」に焦点を当てて活動しています。
- ・世界には貧困や差別など多くの課題があります。
- ・私たちは、「今、私たちが出来ること」を言葉に、
「食×貧困」としてフードドライブを行っています。
- ・簡単にには解決しない問題ですが、まずは食品ロスの観点から、皆さん一人ひとりが考え、向き合っていきたいと考えています。
- ・今後多くの人に「食」の大切さ、「食」の楽しさをお伝えできるよう頑張ります!

03 地域貢献

- ・多くの人が参加することでコミュニティが生まれます。
- ・学生ならではのアイデアで新しい風を。
- ・普段食品ロスや貧困の問題に触れる機会のない人々が、イベントやSNSを通して問題を身近に感じることが出来ます。
- ・私たち学生を含む多くの世代が参加することで、和気あいあいとした雰囲気を生まれ、地域の人々のつながりが深まることで、地域活性化の促進が期待できます。

04 まとめ、及び今後の活動

食品ロスに対する取り組みに加え、新たに生理の貧困・ファストファッションの問題など、様々な課題に向き合い、一つの活動としてではなく、総合的に捉えて活動していきたいと考えています。

11/20(土)、21(日) EVE祭にてフードドライブを行います!

家に食べきれずで眠っている食品があればお持ちください。

非常食の賞味期限も確認を!

場所:同志社女子大学 今出川キャンパス

げんき推進プロジェクト -同志社女子大学まちづくり委員会-

[illegible]

今後の目標

今後も、交流会を行うたびに反省を行いより良い交流会にしていけたらと考えています。また交流会を継続させていくために、現在行っているアンケート調査や、手紙のやり取りも、よりよい交流会にするためのアイデアを出し合い、新しいことに挑戦して交流会の質を上げてみたいと思います。さらに、皆様や学生、手紙の送り主、読者の皆さんとのつながりを維持するために今後も力を入れていきたいと考えています。また、海外の方や海外の学生の方とのやり取りだけでなく、楽しい企画なども、実施方法やタイミングを工夫していきたいと考えています。そして交流会を継続して行い、年齢層や方法の幅広い会員の方との関係性を深め、共にコロナ禍を乗り越えていきたいと思います。